

## 平成 29 年度 第 3 回糖尿病療養指導研修会(報告)

主 催 熊本県糖尿病療養指導士会

日 時 平成 30 年 3 月 18 日 (日)

会 場 名 熊本中央病院 大講堂 (管理棟 3 階)

### テーマ「糖尿病の代謝と栄養管理を学ぶ」

○ 認定内容 1 群(栄養士)2 単位申請中／2 群(糖尿病療養指導)2 単位申請中 CDE-Kumamoto

午前の部 (9 時 00 分～12 時 10 分)休憩 10 分を含む

《講演 1》『糖尿病患者をみる上で、知っておきたい水・電解質の基本』

国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院 腎臓科 唐原 靖治 先生

午後の部 (13 時 00 分～16 時 10 分)休憩 10 分を含む

《講演 2》『糖尿病や生活習慣病の診療に潜む肝疾患を見落とさないために』

佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター 特任教授 江口 有一郎 先生

#### ◇報告

《講演 1》

講義前半は糖尿病と慢性腎臓病(CKD)の病態や栄養療法(保存期腎不全や透析症例)、これら二つの疾患の関連について講義をしていただきました。

日本の成人人口の約 13%、約 1330 万人が CKD 患者で、その原疾患は糖尿病や高血圧が多いとのことでした。糖尿病が原疾患である CKD 患者は末期腎不全や心血管死亡リスクも高いとのこと、改めて早い段階で糖尿病の治療を行うことの大切さを教えていただきました。

講義後半は体内の水・電解質と酸・塩基平衡について、またこれらのバランス異常によって生じる様々な疾患について講義をしていただきました。

水・ナトリウム代謝異常で起こる低ナトリウム血症や高ナトリウム血症、糖尿病患者に起きうる急性代謝異常である糖尿病性ケトアシドーシスなど多くの症例を提示して、その原因や水、電解質の管理について詳しく教えていただきました。先生は、水や電解質異常の治療を行っていく上で体重や呼吸数、むくみなど見た目がとても大事であると話されました。患者様の様子を日々よく観察していくことの大切さを学びました



## 《講演 2》

午後の部は江口先生から「肝臓の働きと栄養」「ウイルス性肝炎の最新治療について」「脂質異常症や糖尿病に潜む非アルコール性脂肪肝炎を見落とさないために～拾い上げから治療まで～」の三つのテーマで講義をしていただきました。

「肝臓の働きと栄養」では代謝を中心とした肝臓の働きや、肝疾患の病態や治療方針、栄養療法、さらにサルコペニアやフレイルと肝疾患の関連などについて講義をしていただきました。肝疾患の栄養療法はとても大事で、栄養療法が患者様の QOL を改善すると教えていただきました。

次に「ウイルス性肝炎の最新治療について」では C 型肝炎や B 型肝炎の最新治療について講義をしていただきました。C 型肝炎は経口薬で 100% 治る時代になったことやその治療期間は 3 か月で済み、副作用も少ないことから、私たち医療スタッフは積極的に患者様に治療を進めることが大事であることなどを教えていただきました。

最後に「脂質異常症や糖尿病に潜む非アルコール性脂肪肝炎を見落とさないために～拾い上げから治療まで～」では NAFLD(非アルコール性脂肪性肝疾患)と NASH(非アルコール性脂肪肝炎)の病態、診断、治療などについて教えていただきました。NAFLD/ NASH とメタボリックシンドロームには密接な関連があり、肝の脂肪沈着の程度と内臓脂肪は相関するとのことでした。食事や運動療法による体重減少は NAFLD/ NASH に有効で、現在佐賀大関連病院で行われている NAFLD パスの取り組みについても教えていただきました。食事や運動療法を継続するには患者様本人をその気にさせることが大事であるとのことでした。ドロップアウトしないことを目標に、患者様一人一人に寄り添った、無理のない支援をしていくことの大切さを学びました。



今回は平成 29 年度最後の糖尿病療養指導研修会でしたが、124 名の参加者があり、活気のある研修会となりました。先生方には最新の情報を織り交ぜながら、たくさんのことを教えていただきました。糖尿病の療養指導をする上で大変参考になりました。唐原先生、江口先生、どうもありがとうございました。

今回の研修会は、講義に加えて診療報酬改定、ミニ学会と会員の関心が高い内容で、約 160 名の参加でした。年度の締めくりにふさわしい充実した研修会でした。